

	一足制(上履きの廃止)	備考	
検討経緯	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昨年来、新校舎整備の基本構想・基本計画に関して議論をしてきたなかで、新校舎に備えるべき教育環境の一つとして、教育委員会から一足制が提起されてきた。 ■ こうしたことから、多様な学習形態や教育活動に対応できる環境を整備していくという学校施設整備の基本的な考え方の中で、一足制の導入による施設整備についても検討していく事項として、中野区立小中学校施設整備計画を改正のうえ、位置づけてきた。 ■ この間、新校舎の基本設計を進めていく中で、一足制の導入効果について検討を重ねた結果、今後整備していく小中学校の新校舎については、一足制により整備していくこととした。 		
一足制導入に伴う校庭の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 校舎内に校庭の砂塵等を持ち込むことのないよう、人工芝等の材質により、校庭の表層部を整備していく。 ■ なお、人工芝等にて校庭を整備したことによる教育活動等への支障がないよう、考慮していく。 		
メリット	<p>運営上の効果</p> <p>新校舎で実現できること</p>		
	<p>利便性 (出入口をどこからでも使うことができる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 校舎・校庭・その他併設施設への出入りがスムーズとなり、施設の一体的活用が可能 ■ 校庭・教室での活動について、動線を気にすることなく、また活動が途切れずに移行が可能 ■ 施設のバリアフリー化が一層推進(車いす利用者も、通常使用する車いすを気兼ねなく校舎内で使用可) 	<p>地域開放型学校図書館、キッズ・プラザを、動線の制限なく一体的に活用できる。</p>
	<p>安全性 (昇降口などの混雑緩和)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昇降口における事故・トラブルの回避 ■ 災害時の避難・誘導が安全に行われる 	
	<p>効率性 (移動時間の短縮)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昇降口における靴履き替えのための時間が不要となるため、円滑な授業進行につながる ■ 校庭を使用しやすい環境となることから、体力向上に寄与する 	
	<p>省スペース化による他用途活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域との連携を進める機能(地域連携室)や、教員間の研鑽や交流を促す機能(職員打合せ室)等を新たに整備できる 	
		<p>【その他の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 校庭を人工芝等により整備することにより、校庭の使用制限(水たまり等)がなくなる <p>【その他のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユニバーサルデザインへの対応 ■ 来校者用のスリッパの用意が不要 	<p>以下、一足制導入校の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 校舎内の汚れ等については、上履き採用校と変わらない(特別な清掃は不要) ■ 大雨でも校舎内に水がたまることはない
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 校庭材質に限られる(校舎内に砂塵等を持ち込まない人工芝、ゴムチップ舗装等)※天然芝生不可 ■ 校庭整備・維持のコストが従前の土、ダスト(石灰質)舗装よりかかる ■ 校庭材質によっては、使用に適さない競技あり ■ 下足・上足の履き替えという日本の伝統・文化の継承への懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 雨天時に靴が濡れることへの対応は、別途ルールを策定する必要がある 	